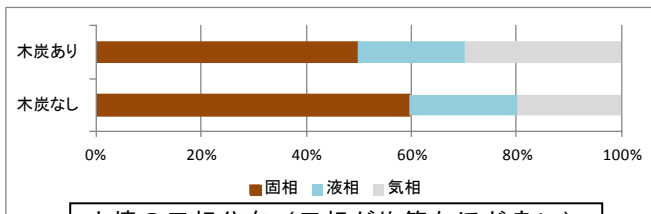


# 木炭で土壤物理性が改善します

埼玉県では、地球温暖化対策として、化石燃料に頼らない木材チップを活用した発電（バイオマス発電）に取り組んでいます。その副産物として出る木炭（針葉樹のチップから可燃性ガスを取り出した後に残った木炭：バイオ炭）を用いて、土壤の物理性の改善に取り組みました。

畑に木炭を 50kg/a 施用して耕すことを 4 年間繰り返した結果、最初は重く硬かった土が、作土層（地面から 15cm 程度の深さ）では、次第に軽く、農作物の根が張り易い土壤に変化していきました。ブロッコリーでは、木炭を施用しないで栽培したもの比べ、生育が良く、花蕾の品質も良好でした。また、木炭を燃やさずに土壤中に蓄積することで、二酸化炭素の排出を抑える環境保全効果があります。



作土が軽くなる

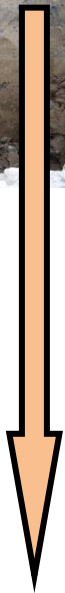


木炭あり (仮比重 1.2)  
黒く見えるのが木炭の塊



木炭なし (仮比重 1.4)

仮比重：単位容積当たりの土壤の固相重量で、軽い土ほど値は小さい  
1.3 以上では改善が必要 (数値は水田農業研究所内ほ場での結果)



木炭を施用した畑で育つブロッコリー

木炭を施用した栽培では、生育が良好となりました。

